科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名<英訳>	ILASセミナー：福島県での震災復興支援研究 ILAS Seminar :Collaborative Research in Fukushima Prefecture from 2011			担当者所属職名・氏名	生存圏研究所 助教　　上田　義勝		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期集中	受講定員(1回生定員)	10 (6) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中 集中	教室	生存圏研究所 本館S棟1階S148室(生存圏未来開拓研究センター・先端計測技術開発ユニット)(宇治キャンパス) (宇治キャンパス)			使用言語	日本語
キーワード	東日本大震災 / 環境放射能 / 産学連携 / 学際研究						

[授業の概要・目的]

2011年3月に発生した東日本大震災における福島県での復興支援研究の事例について紹介する。実際に現地で用いたサンプルなどを紹介し、計測実習も行いながら、分野にとらわれない連携研究の可能性と、総合大学としての京都大学の役割について討論する。また、現在もしくは将来的に発生するであろう自然・人工的な災害に対して、どのような対応がとれるのか、短期集中的にディスカッションを行う。
ディスカッションの際には、多分野の教員や学生を含めての超分野大喜利形式にて行い、それぞれの思考・アイディアを視覚化し、方向性を定めていく。

理系・文系にとらわれず、各個人が専攻する専門分野の役割を考えながら、
より多くの情報を集め、多分野と連携する事で、より幅広い災害復興支援の可能性について議論を行いたい。

[到達目標]

福島県での復興支援研究では、研究分野に関係なく連携した支援研究を行い、大学・企業が一緒になって現地で活動してきた。本セミナーでは、これらの実際の現場での活動で用いた実際の実験・計測体験を通して、今後各自の専門分野の役割を見直し、将来、大学で学んだ事を活かすためにどのようにすれば良いか、考えていくきっかけにしてほしい。

[授業計画と内容]

京都大学宇治キャンパスにおいて、福島県での復興支援研究で用いた実験設備見学なども行うため、3日間の集中講義形式で行う。実施時期は9月中旬～下旬を予定している。事前学習としては、放射線計測に関する基礎的な知識を、公益財団法人　放射線計測協会のホームページなどで確認しておくことが望ましい。

第1日）
・生存圏研究所見学
・生存圏未来開拓研究センターの紹介
・参加者の研究背景について自己紹介形式で発表

第2日）
・東日本大震災の概要と、福島県における原発事故について
・現在行われている福島県での連携支援研究（計測機器を用いた実習）

ILASセミナー：福島県での震災復興支援研究(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：福島県での震災復興支援研究(2)

・福島県での支援研究から広がった共同研究について（海外）

第3日）
・福島県における環境放射能と、除染活動（計測実習：放射線）
・将来起こりうる連携支援研究の可能性についての議論
・各自の専門分野が持つ役割についての紹介

第4日）
・専門分野が持つ役割と、その可能性についての議論
・グループディスカッションによる連携研究の可能性の検討
（超分野大喜利形式による）
・全体のまとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席と参加の状況（3回 各10点）、討論への積極的な参加（10点）、レポート（3回、各20点）により評価する。

[教科書]

資料についてはその都度電子ファイル、もしくは印刷媒体として配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

放射線計測の一般的な知識について、事前予習しておくことが望ましい。
尚、KULASISやPandA等により事前に授業について連絡する。
超分野大喜利については下記URLを参照のこと。
https://research.kyoto-u.ac.jp/gp/g064/

[その他（オフィスアワー等）]

採点成績については、１０月以降に報告する。